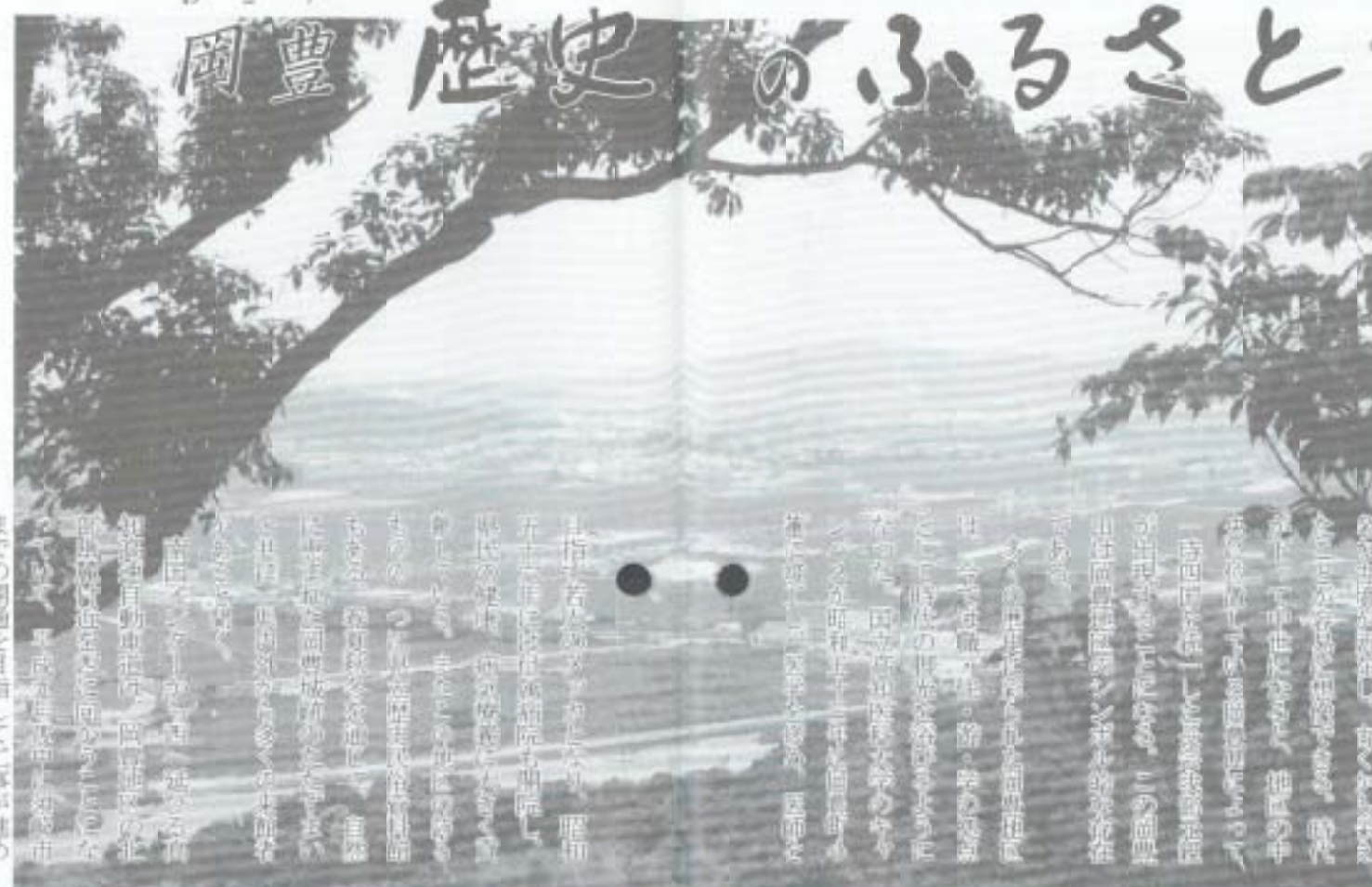


おこ 岡豊歴史のふるさと



このほか、漫画、スポーツで有名な単立岡豊高校、老人保健施設の移の里など、各分野における施設も多く、今や岡豊地区は我が南國市の一つの顔である。

多くの歴史を秘めた岡豊山の姿を写して流れる岡分川に代表される美しい自然を失うことなく、恵まれた立地に即した各分野の活性化は、南國市勢に大きなインパクトを与えることと思われ。

南國市岡豊町はほぼ中央を岡分川が流れ、国道三十二号線が東西に走り、里山を背にして豊稔な庄園の広がる緑豊かな地域である。

土佐の歴史は隣の国府地区と共に、この岡豊地区を除いて語ることはできない。古くからの歴史に培われ、現在の南國市北部は、飛騨発展が望まれる地域である。

岡豊地区は縄文、弥生の時代を経て古墳時代になると、小蓮古墳群を代表する。この古墳群は、古くから「小蓮古墳群」として知られ、その中心地として、岡豊地区の歴史を語る上で重要な役割を果たしている。

また、この地域には、縄文時代の遺跡や、弥生の時代の遺跡も数多く見つかっており、その歴史の深さを物語っている。

高知県立歴史民俗資料館
岡豊山の登山口に当たるバス停、学校分岐から青葉の樹間にくねる舗装道路を頂上に向かって約五分、大理石と石灰岩をふんだんに使った近代的な白亜の殿堂。高知県立歴史民俗資料館の雄大な建物が私たちの眼に飛び込んできた。

この歴史民俗資料館（歴史民俗）は、四国に覇を唱えた長宗我部元親の居城跡にふさわしく、山城をイメージした設計で、平成三年五月に開設したものである。

展示室には、県内の貴重な文化遺産や歴史資料が見事に分類整理されて陳列してあるほか、失われつつある農山漁村の往時の生活を知ることができる多くの民具類の展示もあり、適切な説明文、図及び模型などによって郷土の歴史と生活文化の交差を短時間で容易に理解できるように工夫されている。興味関心のあらわれる方はもちろん、小学生から一般の方々にも歴史と生活文化を学ぶことのできる秀れた博物館である。特に補



形の内墳。遺体を埋葬した玄室の広さは、長さ七・六メートル、幅二・一メートルの長方形。

明治時代から開口していたので、副葬品はほとんど盗難にあっているとは、まさに「インディージョーンズ」の世界。曇り日の夕方ということで、中はまっ暗やみ。天井部は、五層もあるかと思われる巨大な石で、本当にすごい。古代の人間は男性でも百五十センチ、百五十六センチの身長と推定されているので、現代人よりはるかに小さい。その小さい人間を一体何人使って、こんな巨大な墓を作らせたかと、被葬者の権力の偉大さが想像される。

でもまた少しマンガチックに想像したなら、突然変異の大男がいて、二百センチの石をどろどろと積み上げて、これを作ったかもしれない。あるいは、ガリバーならぬ宇宙人がいたかもしれないなど...



戦国時代、長宗我部氏の居城があった岡豊山の山頂部は、今では公園として整備されている。ここは非常に見晴らしのいい場所。岡分寺や岡分川、西島園芸団地などのいわゆる、土佐のまほろば地域が一望できる。家族連れでお弁当を食べに来るのもし、若いカップルたちのデートコースとしてもおすすめです。歴史を学びながら、コミュニケーションがはかれる一石二鳥の市民安らぎの場である。

小蓮古墳を訪ねて

土佐の三大古墳の一つで、県下最大の小蓮古墳を訪ねた。国道三十二号線から、わずかに五十メートル程の山の手にある。竹やぶのトンネルを少し登ると、静寂の林の中に大きな入口がみえてくる。

六世紀の終わりごろつくられたと考えられていて、南北二十八メートル、東西二十二メートル、高さ三メートルの日

昆沙門の滝

岡豊町滝本にある昆沙門の滝は、高さ約三十メートル、三段にわかれて落ちている見事な滝である。中段には竜の駒の足跡といって、昔に大きな馬の跡のような跡がある。すぐ近くに昆沙門堂が建っているが、これにはこんな話が残っている。昔、弘法大師が天津の港にいたとき、滝の音を聞いてここを訪ね、滝にうたれて身を清め、昆沙門天を彫刻し、これを祭ったのが昆沙門堂であるという。滝の前の池には、鯉がゆっくと泳いでいる。周囲には老木が茂り、新緑のころもいいが、秋の紅葉の季節はまた、格別である。

